2018年外務省「ロシアにおける日本年」認証事業

『日露 未来をつむぐ『百万本のバラ』プロジェクト』

■プロジェクトスケジュール

2018年
6月20日（水）　ユジノサハリンスク市内北海道センターにてバラの記念植樹
　　レセプション、国立サハリン大学にてワークショップ
6月21日（木）　19:00～　サハリン・コンサート（会場：チェーホフセンター）
　　出演：　加藤登紀子・北川　翔（バラライカ）・鬼武みゆき（ピアノ）
6月23日（土）　ポロナイスク市立音楽学校ホールにてミニコンサート
　　出演：　加藤登紀子
6月24日（日）17:00～　ウラジオストク・コンサート（会場：沿海地方フィルハーモニー）
　　出演：　加藤登紀子・北川　翔・鬼武みゆき・太平洋交響楽団
6月25日（月）　極東連邦大学にてワークショップ

《同行ツアー》
プロジェクトと同時開催する「サハリン・ウラジオストク同行ツアー」につきましては、コンサート日程を中心に札幌及び成田発着の４～８日間コースで設定いたします。スケジュールや旅行代金はエア・スケジュール決定後に発表いたしますが、ツアー募集につきましてはロシア旅行社（担当：福井）までお問い合わせください。

▶株式会社ロシア旅行社（担当：福井学）　〒102-0076　東京都千代田区五番町 5-1 第８田中ビル５階
TEL：03-3238-9101　　FAX：03-3238-9110　　E-mail：fukui@russia.co.jp

出演者プロフィール

加藤登紀子

1965年、東京大学在学中に歌手デビュー「ひとり寝の子守唄」（69年）、「知床旅情」（70年）が大ヒットしＮＨＫ紅白歌合戦出場。1965年東大在学中に第２回日本アマチュアシャンソンコンクールに優勝し歌手デビュー。「難破船」「わが人生に悔いなし」などの楽曲提供や「百万本のバラ」の大ヒットで全世界コンサートツアー開催。2000年にはモスクワでのコンサートを成功させている。歌手活動のほか女優、著作の活動も積極的に行い、高倉健主演映画「居酒屋兆治」に女優として出演（82年）、宮崎駿監督のアニメ映画『紅の豚』では声優としての魅力も発揮した（92年）。さらに東京ではロシアレストラン２店舗を経営。現在は年間約８０本の全国コンサートツアーを行いながら、千葉県鴨川市で夫・藤本敏夫の築いた鴨川自然王国を拠点に農的生活をリードし米・野菜作りを営む。
公式ホームページ http://www.tokiko.com

北川 翔（ バラライカ）

ロシア民謡研究家であった北川剛を祖父に、バラライカ奏者であった北川つとむを父に持ち、幼少よりロシア音楽に親しむ。日本人初の「国際ロシア民族楽器コンクール優勝」を成し遂げ、ロシア国立ラフマニノフ記念ロストフ音楽院留学から帰国。テレビ朝日「徹子の部屋」、ＮＨＫ「名曲探偵アマデウス」など、TV、ラジオ、新聞等に登場し、日本でのロシア民族楽器普及のため、幅広く活動している。2009年、北川記念ロシア民族楽器オーケストラを創立。世界から注目を浴びる新進気鋭のバラライカ奏者。指揮者編曲者としても活躍中。
公式ホームページ　http://sho-kitagawa.net

2018年外務省「ロシアにおける日本年」認証事業
「日露 未来をつむぐ『百万本のバラ』プロジェクト」

■開催趣旨

2018 年外務省「ロシアにおける日本年」認証事業として、日本とロシアを数々の名曲で結んできた歌手、加藤登紀子が、過去・現在・未来にわたって両国をつなぐ大切な場として、サハリン、ウラジオストクでのコンサートやワークショップを開催し、両国関係の未来を担う残留邦人 2 世 3 世をはじめ、多くのロシアの人々との交流を図ります。
加藤登紀子の家族は、戦前ハルピンで生活しており、終戦の翌年 1946 年に日本に引揚げました。母親一人で 8 歳、6 歳、2 歳の 3 人の子供を連れての引揚でした。白系ロシア人に囲まれて育った彼女の日露交流への想いはとりわけ強く、またサハリン残留の歴史は自身の家族の物語にも重なります。1987 年に彼女自身の日本語詞で歌った「百万本のバラは」100 万枚を超える大ヒットとなり現在も息長く歌い続けています。一方、この歌はロシアでもアラ・プガチョワが歌い大ヒットさせました。コンサート会場では、現地の日本人、ロシアの人々に参加してもらい「百万本のバラ大合唱」が出来ることを期待しています。

■企画内容

①加藤登紀子コンサート in サハリン＆ウラジオストク 2018
②日ロの未来をつなぐ「バラの植樹」
③日本語を学ぶ学生を対象とするワークショップ
④サハリン＆ウラジオストク同行ツアー

■主　催　「加藤登紀子コンサート in サハリン＆ウラジオストク 2018 実行委員会」
　　実行委員長　　斎藤　弘美（日本サハリン協会会長）
　　副実行委員長　加藤　幸子（トキコプランニング会長）
　　副実行委員長　徳田　修作（トキコプランニング社長）
　　事務局長　　福井　　学（ロシア旅行社）
■共　催　サハリン州政府・サハリン日本協会・沿海日ロ友好協会
■後　援　北海道・在日ロシア連邦大使館・在ユジノサハリンスク日本国総領事館
　　在ウラジオストク日本国総領事館・ユジノサハリンスク市・ウラジオストク市
■協　力　在札幌ロシア連邦総領事館・NPO 法人北海道日本ロシア協会・ユジノサハリンスク日本センター・
　　ウラジオストク日本センター・JA ひがしかわ（予定）・東川町（予定）

プロジェクト実現のための募金のお願い

加藤登紀子コンサートは一般の市民が入場する有料での開催となります。プロジェクトでは、このコンサートに残留邦人によるサハリン日本人会（北海道人会）会員を招待するとともに、友好の証としてユジノサハリンスクの北海道センター日本庭園にバラの植樹を行います。これらの費用を、サハリン（樺太）や残留邦人に心を寄せてくださる皆様からの募金でまかないたいと思っております。ご協力くださいました方のお名前はバラ園に設置する記念のネームプレートに掲載する予定です。多くの方のご協力をお願いいたします。

募金方法（1 口 1 万円）

▶郵便振替
【口座記号番号】00120－5－451461　　【加入者名】「百万本のバラ」プロジェクト
※銀行（三井住友銀行・ゆうちょ銀行）からのお振込ご希望の方は、日本サハリン協会まで電話またはメールにてご連絡ください。口座番号をご案内いたします。

▶現金書留
宛先／〒151-0065　東京都渋谷区大山町 46－5－202
NPO 法人日本サハリン協会内　「百万本のバラ」プロジェクト係
TEL　03-5453-2931　FAX　03-5453-2936

■サハリン残留日本人について

日露戦争終結後の1907年に北緯50度以南が日本領の「樺太」となったサハリンには、日本本土、あるいは朝鮮半島から多くの人々が移住し、1941 年には朝鮮半島出身者を含む人口が 40 万人を超えていた。第 2 次世界大戦終結直前の 1945 年 8 月 8 日、ソ連が日本に宣戦布告し、攻撃を開始。日本本土における終戦となる 8 月 15 日以降も戦闘が続き、人々は艦砲射撃の中を逃げまどった。大泊（現コルサコフ）や真岡（現ホルムスク）からは多くの住民が漁船などを使って北海道に脱出したが、戦闘が終結した時点ではおよそ 30 万人が残されたという。1946 年に「ソ連地区米ソ引揚協定」による集団引揚が始まり、1949 年の終了までに約 28 万人が日本への上陸を果たした。しかし、この協定では朝鮮人は引揚の対象になっていなかったため、朝鮮人と結婚していた日本人女性の多くは引揚を断念せざるを得なかった。京都大学の中山大将助教によれば、引揚終了時点で 1500 人近い日本人が残留し、朝鮮人の残留は 2 万人から 4 万人に上ったとされる。以後、長く続いた東西冷戦の時代、サハリンと日本の間の移動は制限され、情報も届かなかったことで、多くのサハリン残留日本人は日本人であることも隠しながらひっそりと生きていかざるを得なかった。1980 年代後半のペレストロイカの時代に入り、ようやく日本への帰国事業が民間（日本サハリン協会の前身団体）によりスタートし、これまでに延べ 3500 人が一時帰国を、また日本サハリン協会が把握している数としては 135 世帯 305 人が永住帰国を果たした。1990 年代には多くの樺太出身者が故郷を訪ねてサハリンを訪れ、残留日本人はそうした人々との交流を心待ちにしていた。戦後 72 年が過ぎ、サハリンに残留する日本人のうち、1 世とされる戦前生まれは年々減少し、樺太出身者も高齢化してサハリンを訪れることがなくなっている。しかし、祖父母や親たちから日本の話を聞き、彼らの一時帰国に介護者として付き添ってきた 2 世 3 世は、自分のルーツとして日本を意識するようになっており、日本とロシアを結ぶ新たな架け橋となる人材が育っている。サハリン日本人会（北海道人会）には、最近こうした 2 世 3 世の加入が増えており、サハリン大学や日本総領事館の協力で開催されている日本語教室に通って日本語を学んだりしている。しかしロシアは ODA 対象国ではないため、途上国で行われているような日系人への公的機関による日本文化学習の機会提供はなされていない。その意味で今回のプロジェクトは、日本とのつながりが深いサハリン在住の残留邦人 2 世 3 世への民間支援といえよう。

■NPO 法人日本サハリン協会　Japan - Sakhalin Association

設立の趣旨

1986 年に始まったペレストロイカによって、それまで墓参団だけに限られていたサハリンへの訪問が、一般の観光客にも広がり、樺太出身者による訪問が相次いだ。1988 年、「平和の船」でサハリンを訪問した人達に、サハリンの残留者たちから、日本への里帰りの実現に向けて支援の要請があった。これに応えるため、1989 年 12 月に里帰り・一時帰国の実現に向けて「樺太（サハリン）同胞一時帰国促進の会」が有志により設立された。

設立及び事業経緯

1988 年 9 月「平和の船」でサハリンを訪問した際、残留している人達から支援の要請を受ける
1989 年 12 月「樺太（サハリン）同胞一時帰国促進の会」を設立
1990 年 5 月第 1 次一時帰国者 12 人がハバロフスク経由で新潟空港に到着
　　12 月ユジノサハリンスクにて「サハリン日本人会（北海道人会）」設立
1991 年　「樺太（サハリン）同胞一時帰国促進の会」が外務大臣表彰を受章
1992 年 12 月「促進の会」を発展的解消し、あらたに「日本サハリン同胞交流協会」設立
1995 年　政府より「引揚業務（一時帰国業務）」の委託を受ける
1996 年　永住帰国者の身元引受人として団体登録し、団体引受を開始
1999 年　NPO 法人の認証を受け、厚生労働省より樺太等残留邦人一時帰国事業を受託
2012 年 12 月「NPO 法人日本サハリン協会」と改称、役員を一新して、事業を継続
2016 年　樺太等残留邦人のための共同墓所を札幌市内に建設
　　「サハリン日本人会（北海道人会）」白畑正義会長が外務大臣表彰を受章

団体概要

代表者　斎藤弘美
会員数（2018 年 1 月 1 日現在）　240 名（うち一般会員 149 名、永住帰国者 91 世帯）
所在地　・東京本部　〒151-0065　東京都渋谷区大山町 46-5 スペーシア大山町 202
　TEL 03-5453-2931　FAX 03-5453-2936　E-mail　info@sakhalin-kyoukai.com
　・北海道事務所　〒060-0001　北海道札幌市中央区北 1 条西 3 丁目 MN ビル 6F SIS 内
　TEL&FAX　011-252-7717
　・サハリン事務所＜サハリン日本人会（北海道人会）＞
　ロシア・サハリン州ユジノサハリンスク市ジェルジンスキー 通 23－311（会長　白畑正義）
サハリン日本人会 (北海道人会) 会員数
　・サハリン州内　101 名 (うち 1946 年以前出生の 1 世は 37 名) ＊ただし会員数は残留邦人数とは一致しません。
　・ウラジオストクを含む旧ソ連大陸在住者（含非会員）　20 名
　＊日本サハリン協会のサハリン事務所は、通常「サハリン日本人会（北海道人会）」という名称で残留邦人によって運営されており、現地日本企業人による組織とは異なるものです。

帰国者数　・一時帰国者数　3,510 名（実数 1,255 名）このうちロシア大陸は 375 名
　・永住帰国者数　135 世帯　305 名
　＊上記集計は 1990 年 5 月以降、当協会が扱った人数で、国費援護対象外者（協会招待による一時帰国者、自費で呼び寄せた永住帰国者）も含まれるため、厚生労働省の統計とは差異があります。